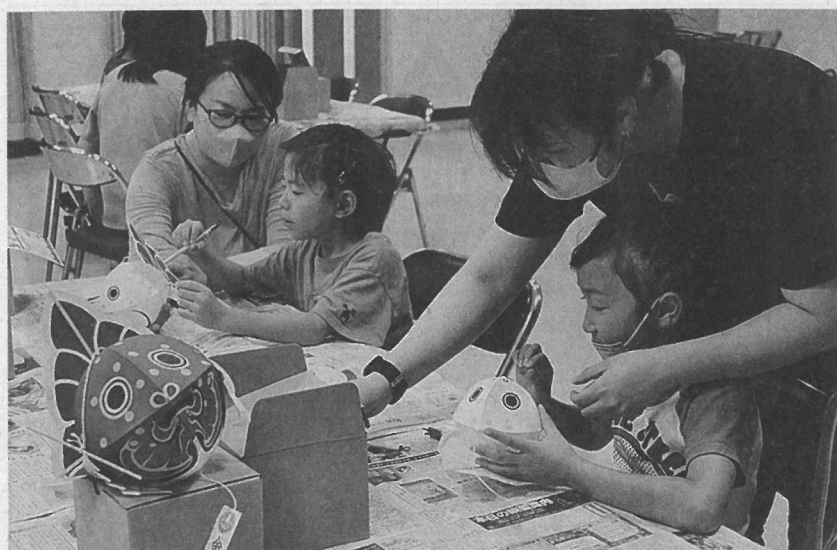


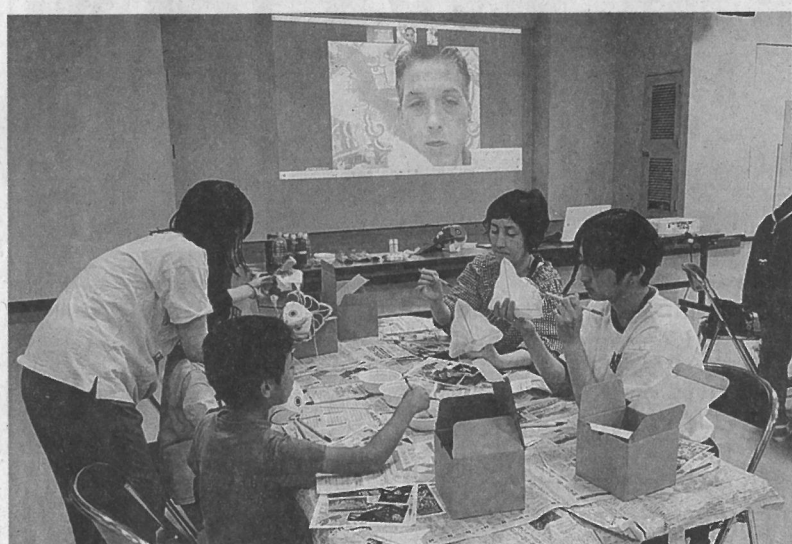
弘前ねぶた作りに挑戦

白壁守る会 制作体験に13人、色付け楽しむ

柳井の金魚ちようちんのルーツ 8月8・11日も開催、参加者募集



柳井市の伝統的民芸品「金魚ちようちん」のルーツと言われる青森県弘前市の伝統工芸品



「金魚ねぶた」の制作体験会が7月23日、市文化福祉会館で行われ、子供からお年寄りまでが色づけ体験に挑戦した。市白壁の町並みを守る会主催。市教委後援。山口きらめき財団の助成金を活用。第32回柳井金魚ちよ

同じ赤色「サイイン」の色塗り」と「ひれつけ」の作業に取り組んだ。ほとんどの参加者が金魚づくりが初めてということもあり、親子たちは完成品を参考に

ランド「やまぐちオリジナル」をイメージした金魚ちようちんを園内に展示している。9月30日まで。

今回、オリジナル農産物と知的財産の認知度を高め、同ランドウ西京シリーズを広めようと、やまぐちオリジナルランドウバージョンの金魚ちようちんを作成したもの。同ランドウが花をイメージした金魚を作成するのは今回初。

うちん祭り（8月13日本祭）を前に、金魚ちようちんの歴史や弘前市との関係性を地域住民により深く知ってもらうことが目的。昨年は、祭り期間中に「金魚ねぶた」や「弘前ねぶた」を制作装飾する企画を立ち上げ、その一環として、体験会を企画した。今回で2年目となる体験会は全3回実施する。1回目（8月6日）は、柳井市近郊の4歳から60歳までの13人が応募。参加者たちは、弘前市の職人さんから直接、オンライン指導を受けながらの制作に挑戦。ねぶたの形に貼られた和紙には、すでに目や口、えらなどが墨書きされ、うるこもろう書きされている中、参加者たちは、3色（赤、ピンク、黄）の塗料で独自に色付けし、ひれなどの装飾を行い、直径12センチ、高さ20センチの弘前ねぶたを完成

【金魚ねぶた】弘前ねぶた祭りなどで運行する金魚型の山車や灯ろうのことで、江戸時代に津軽藩で飼育されていた金魚「津軽錦」をモチーフに作られたのが始まりと言われている。（写真は金魚ねぶたづくりに取り組む親子たち。下はオンライン指導で行われた体験会

西京シリーズとは、山口県で生まれたオリジナルランドウ。特徴は、鮮やかな青紫の花色で、国内で最も開花の早い「西京の初夏」（平成26年度品種登録など、現在5種類をそろえる。作成した金魚ちようちん（長さ30センチ）の胴体は青紫色で、ひれは葉っぱに見立てた緑色となっている。全20個のうち、1個は入園ゲート前に残りはイベントホールに展示している。

お問い合わせ先 ランド（0882・1187）まで。写真はやまぐちオリジナルランドウの金魚ちようちんに、弁護士に無料法律相談弁護士による法律相談が8月9日9時30分から12時柳井市役所3階室で行われる。要予約で定員（市民対象。申し

